

近世漢語の可能補語について

布 川 雅 英

1. はじめに

本稿は1995年1月に神奈川県立大学へ提出した修士論文の一部、『醒世姻缘传』の可能補語について深く検討し、詳細に論じたものである。『醒世姻缘传』の可能補語に関しては研究されていないことも多い。従って本稿では『醒世姻缘传』の可能補語を形式と意味によって分析し、考察を加えるものとする。ここでは最終的な結論を出すことはできないが、近世漢語の可能補語を考察することにより、現代漢語の可能補語研究に対して新たな視点を投じるものである。本稿で取り扱う可能補語とは次の3形式である。

- ①動詞＋“得／不”＋結果補語／方向補語（以下省略の際は、‘V得R’‘V不R’とする）
- ②動詞＋“得／不得”
- ③動詞＋“得了／不了”

1.1. 使用する版本

使用する版本は、活字本で黄肃秋校注の上海古籍出版社(1981)（以後活字本）と『重订醒世姻缘传』同德堂梓文学古籍刊行社影印(1988)（以後同德堂本）を用いる。活字本は前言によると、1933年の垂東図書館排印本を底本とし、8種の刻本と2種の石印本を付け合わせて出版したという。同德堂本は

最も古い刊本といわれているが(注1), 今回使用した同徳堂本は出版説明によると, 首都図書館に所蔵する同徳堂刊本を底本として, 破損が激しい頁は同治庚午本で補ったという。なお句読については活字本に従うこととした。また、例文の字形については, パソコンソフトの制約上簡体字とした。

2. 用法分析

2.1. 動詞+“得/不”+結果補語/方向補語の用法分析

この形式での出現数は, 可能の意味が読み取りにくいものを除くと, 肯定形で152例, 否定形で798例であった。

2.1.1. 補語の形式的分類。(数字後の(‘*’)は可能の意味が読み取りにくいものの数を別表記した。また, 結び付く動詞は出現頻度の高い主な動詞を挙げた。)(注2)

-得 R 用例数	結び付く動詞	-不 R 用例数	結び付く動詞
-得安穩 0		-不安穩 1	住
-得飽 0		-不飽 1	喂
-得成 6 (* 1)	起身, 去, 煮	-不成 52	活, 做, 去
-得出 2	做, 拿	-不出 35	说, 拿, 看, 辨
-得出来 11	写, 拿, 做	-不出来 60	说, 打, 认, 做
-得出去 1	打	-不出去 13	卖, 拿, 打, 分
-得大 1	养	-不大 1	养
-得到 3 (* 2)	想, 动, 弄	-不到 26	来, 想, 说, 谋
-得倒 0		-不倒 4	压, 拿, 证, 降
-得吊 0		-不吊 1	挖
-得迭 0		-不迭 0 (* 18)	
-得定 2	拿	-不定 4	拿, 料, 卧

-得动	2	(* 1)	拉, 烦	-不动	26		走, 抬, 使, 拉
-得断	0			-不断	3		割
-得犯	0			-不犯	1		治
-得够	0			-不够	1		吃
-得惯	1	(* 1)	走	-不惯	3		吃, 生, 支使
-得过	23		气, 瞒, 躲	-不过	62	(* 7)	气, 瞒, 脱, 照
-得过来	3		忏悔, 改	-不过来	3		报, 解, 疼
-得过去	1		打	-不过去	0		
-得好	1		医	-不好	8		治
-得回去	1		勾	-不回去	1		云
-得会	1		教	-不会	0		
-得活	0			-不活	3		救
-得及	1		攀	-不及	12	(* 1)	信, 来, 攀, 死
-得见	8		看, 寻	-不见	20		看, 寻, 撞, 听
-得尽	0			-不尽	36	(* 59)	说, 用, 使, 吃
-得进来	0			-不进来	1		等
-得进去	1		插	-不进去	6		见, 收, 赶, 入
-得就	0			-不就	1		画
-得开	3		撞, 驳, 拍	-不开	11		折, 打, 推, 睡
-得来	11		做, 讲, 背	-不来	41		出, 上, 做, 起
-得了	0			-不了	24		穿, 报, 写, 吃
-得满	0			-不满	1		填
-得明白	0			-不明白	1		说
-得起	13	(* 1)	担, 算, 当	-不起	51		当, 禁, 担, 做
-得起来	4		抬, 救, 站立	-不起来	10		抬, 想, 做, 走
-得去	9	(* 3)	进, 过, 出	-不去	18	(* 7)	进, 过, 起, 上
-得入	0			-不入	1		听
-得杀	0			-不杀	1		打
-得上	4	(* 1)	看, 跟, 赶	-不上	35	(* 11)	看拉, 看, 赶

-得上来	0		-不上来	8	回, 合, 讲, 念
-得上去	0		-不上去	1	加
-得熟	0		-不熟	1	睡
-得停当	0		-不停当	2	活, 弄
-得通	0		-不通	2	说
-得透	0		-不透	2	见, 看
-得脱	0		-不脱	3	保荐, 辞, 挣
-得完	0		-不完	3	吃, 做, 催
-得稳	0		-不稳	4	坐, 睡, 住
-得下	6	放心, 吃, 放	-不下	32	放心, 放, 吃
-得下来	4	(* 2) 说, 按, 救	-不下来	17	揭, 说, 管, 拿
-得下去	5	(* 2) 吃, 看, 听	-不下去	2	吃, 衬
-得响	2	说	-不响	1	(* 2) 说
-得醒	0		-不醒	1	叫
-得在	0		-不在	0	(* 3)
-得着	4	(* 3) 用, 合, 睡	-不着	68	(* 9) 寻, 猜, 睡, 累
-得止	0		-不止	0	(* 5)
-得中	0		-不中	4	看, 打, 取, 选
-得中意	0		-不中意	2	看
-得住	17	瞒, 保, 拦	-不住	63	(* 11) 留, 拿, 拦, 止
-得转	1	搭救	-不转	0	
-得转来	0		-不转来	4	救, 吊, 搭救

上の表を注意深く考察すると、肯定形と否定形との出現比率にも違いがあることがわかる。例えば‘-得及’は1例であるが、‘-不及’12例出現する。‘-得尽’は皆無であるが、それに対して‘-不尽’は36例、同様に‘-得了’は皆無であるが、‘-不了’は24例出現する。このほか‘-得上’は4例出現するのに対して、‘-不上’は35例、‘-得下’の6例に対して、‘-不下’は32例、‘-得着’の4例に対して、‘-不着’は68例出現する。このように以上の例では否定形

が圧倒的に多く出現する。

これに対して以下の例ではやはり肯定形より否定形の出現が多いが、上記の例のように極端な違いは生じていない。例えば、‘-得过’と‘-不过’の場合では出現数は23例と62例である。このほか‘-得见’と‘-不见’では8例と20例、‘-得来’と‘-不来’では11例と41例、さらに‘-得起’と‘-不起’では13例と51例、‘-得住’と‘-不住’では17例と63例である。(注3)

次に例文を挙げて行くが、意味的分類により「内因可能」「外因可能」「あることをするのが得意でない」「可能性がない」…に分ける。またそれぞれの分類の中では、形式によって肯定形と否定形に分けて例文を挙げて行く。(注4)

2.1.2. 補語の意味的分類としての内因可能（肯定の形式で用いられる例）

次の5例は‘V得R’が単純な平叙文に用いられた例である。目的語が現れる場合とそうでない場合もある。

例1) <这正是做酒的一般：好酒酵方才做得出好酒来> (23・348)
(これはまさに酒を造るのと同じで、よい酒糶があつて初めて、よい酒を造り出すことが出来る。)

例2) <要他不认科敛；把这一件的的大事弭缝得过，别事俱可支吾>
(17・250)
(もしも百姓達が金や物を出すことを認めなければ、この大事件を取りつくりうこともでき、別の事もみなお茶を濁すことが出来る。)

例3) <况且又有郭爷结了相知，小弟就放心得下了> (84・1204)
(まして郭の旦那とは知合いなので私は安心できた。)

例4) <脸上的皱纹也展开了许多，白日里饭也吃得去，夜晚间觉也睡得着>

(18・258)

(顔のしわもたくさん広がり、昼間にご飯を食べることがで

き、夜も眠ることが出来ます。)

- 例 5) <搭救得转, 这是你的造化; 若搭救不转, 这也只得信命罢了>
(42・617)

(助け出すことが出来たら、運が良かったのだ、もしも助け出すことが出来なかったら、これも運命にまかせるしかない。)

次の 2 例は目的語が‘V 得 R’の中に挿入された例である

- 例 6) <及至到了三月, 如何煮得粥成?> (31・460)

(3 月になってどうしておかゆを炊くことが出来ようか。)

- 例 7) <若是果真有些教法, 果然有些功劳, 这也还气他得过> (35・511)

(もしも本当に教え方が上手なら、きっと功劳があり、これも怒りをおさめることが出来る。)

例 6) では“粥”が‘V 得’と‘R’の間に、例 7) では‘V’と‘得 R’の間に目的語が挿入されている。

次の例 8) と例 9) では‘V 得 R’が反復疑問文の形式を取って、動詞句“不知”“晓得”の後ろに埋め込まれている。

- 例 8) <不知晁大舍三月十六日起身得成起身不成, 再听下回续起>
(7・105)

(“晁大舍”が 3 月 16 日に出かけることが出来るか出来ないかは、次回に続きます。)

- 例 9) <虽然才满月的孩子, 怎便晓得后来养得大养不大?> (21・318)

(たった 1 ヲ月の子供であるが、どうして後に大きく育てることが出来るか知り得ましょうか。)

次の例 10), 例 11), 例 12), 例 13) では‘V 得 R’が反語文に用いられている。前の 3 例は“怎(么)”が、最後の 1 例では“如何”が反語の意を補助し

ている。

- 例 10) <只是衙门里边官的心性, 一时的喜怒, 咱怎么拿得定? > (81・1158)
 (役人の感情は喜んだり怒ったりで, 我々はどのようにして理解できようか。)
- 例 11) <衙内窄逼逼的个去处, 添上这们些人, 怎么住的开? > (7・98)
 (役所は狭い所なので, これらの人を入れたらどうして住むことが出来ようか。)
- 例 12) <你看, 可怜杀人的, 这怎么起的去? > (60・866)
 (ほらこんなにひどい目に遭って, どうして起きることが出来ようか。)
- 例 13) <且大家骑马, 你坐了轿, 如何跟得上? > (1・10)
 (みんなは馬に乗り, おまえは籠に乗り, どうして後について来ることが出来ようか。)

次の例 14), 例 15) ではさらに‘V 得 R’の後ろに目的語が用いられている。

- 例 14) <姑娘又没见过官, 怎么说的过这两个光棍? > (81・1158)
 (叔母は役人に会ったことがないので, どうしてこの2人のチンピラを説得できようか。)
- 例 15) <熟鴨子的勾当瞒的别人, 怎瞒得过女儿? > (72・1024)
 (年寄りの売女のしたことは, 他人を騙すことが出来ても, どうして娘を騙し通すことが出来ようか。)

2.1.3. 補語の意味的分類としての外因可能 (肯定の形式で用いられる例)

次の4例は‘V 得 R’が「～できる」(外因可能)を表している。

- 例 16) <这张大、张二也将就当得起个孝子, 这杨氏、王氏也庶几称得起个孝妇>
 (52・760)
 (“张大”と“张二”も親孝行な息子にあたいし, “杨氏”と“王

氏”も親孝行の嫁と称するにあたいする。)

- 例 17) <我又不是大伯，他的房里，我又是进得去的> (60・869)
 (私は年長の伯父ではないが、彼の部屋には入ってもよい。)
- 例 18) <你这首领衙门，事也看得见，来路是看得门的> (84・1202)
 (おまえの役所での仕事はたかがしれている、収入もたかがしれている)
- 例 19) <咱两个也算得起丁对丁，铁对铁的> (95・1355)
 (我々二人は似たもの同志とみなす事が出来る。)

反語文に用いられる用例数は少ないが次のような例がある。

- 例 20) <那五两是还他的药钱，算不得数的。止三两银子，怎么拿的出手？> (4・50)
 (その5“兩”は彼の薬代なんだから、数に入れることが出来ない。たった3“兩”で恥をかかずにすみましようか。)

2.1.4. 補語の意味的分類としての内因可能 (否定の形式で用いられる例)

次の9例では‘V 不 R’は否定の意を表す。

- 例 21) <只见珍哥还在床上害头疼，起不来，身上增寒发热的> (3・33)
 (“珍哥”は床の中でひどく頭が痛く、起きることが出来ず、身体はますます寒く熱が出てきた。)
- 例 22) <你这不过庄农小戸，晓得吃甚东西？吃在口中，也辨不出甚么好歹！> (54・788)
 (貧乏百姓がなにを食べているか知ってるか、食べて口の中に入れても善し悪しがわからない。)
- 例 23) <你既搜不出来，你却如何领了这许多人，不分里外，把妇人身上都仔细摸过？> (11・164)
 (もしも搜し出せないと多くの人を使い、内外関係なく婦人の体もみな調べるのか。)

- 例 24) <我家脸丑脚大, 称不起合一伙汉子打围> (2・19)
(私は顔も醜く, 足も大きく, 男の人と狩りに行くのにはつりあわない。)
- 例 25) <这等高手段, 也做不起家事来> (4・53)
(このようにいい腕なのに, 財産をつくることができない。)
- 例 26) <我的主意已定, 你就是我的娘老子, 你也拗不过我!> (78・1108)
(私の考えはもう決まっている, あなたがたとえ私の親であっても, 私にはかなわない。)
- 例 27) <你叫他休要扯淡, 情管替他儿生不下私孩子!> (56・809)
(でたらめ言うな, どうせ彼女の子供の代わりに私生児を産めないのだから。)
- 例 28) <这个华亭是天下有名的大县, 甲科中用许多物力谋不到的> (1・4)
(この華亭県は天下に有名な大きな県であり, 科擧の試験で多くの財力を使っても, 手に入れられない。)
- 例 29) <素姐姐这几日通吃不动饭> (56・808)
(“素姐”はここ数日まったく箸をつけることもできない。)

次の例 30) では目的語の“他”が‘V’と‘不 R’の間に挿入されている。

- 例 30) <那君子的三乐, 凭你甚么大势, 劫他不来> (引・1)
(その君子の三つの楽しみは, たとえどんな大勢をもってしても, それを奪うことが出来ない。)

次に例 31) から例 35) では‘V 不 R’の‘VR’がいずれも“不了”あるいは“不尽”である。

- 例 31) <今日的酒利害, 这两壶有些吃他不了> (23・344)
(今日の酒はきつくて, この2本はちょっと飲みきれない)
- 例 32) <受的恩重, 来生怕报不了> (92・1312)

- (受けた恩が厚く、生まれ変わっても恩を返しきれない。)
- 例 33) <妈妈子吃不尽自己挣的粮食，穿不了自己挣的衣裳> (92・1309)
 (乳母は自分で稼いだ食糧を食べ尽くせないし、自分で稼いだ服を全部は着尽くせない。)
- 例 34) <本寺的养贍，还支用不了> (93・1326)
 (この寺の生活費は豊富で、使いきれない。)
- 例 35) <周相公说的话也甚多，写不了这些烦言碎语> (98・1394)
 (周の若旦那の話した話はあまりにも多く、細かい所までは書ききれない。)

上記例文中にはいずれも量的意味を持つ語句があり、「～しきれない」の意味に解釈できる。

2.1.5. 補語の意味的分類としての外因可能 (否定の形式で用いられる例)

次の諸例はいずれも外的要因によって、不可能が表現されている。

- 例 36) <如今这一家货又急忙卖不出去> (6・86)
 (今これらの物は急いで売らねばいけません。)
- 例 37) <往时该送一两的，如今三两也打发他不下来> (25・370)
 (以前は1“兩”差し出したが、今は3“兩”も出しても印を押してくれない。)
- 例 38) <虽是父母兄弟是天合之亲，其中毕竟有许多行不去说不出的话，不可告父母兄弟；在夫妻间可以曲致> (引・5)
 (父母兄弟は天のめぐり合わせであるが、そのなかでも行っ
 てはいけなく、言うにさしきわりがある話は、父母兄弟には言
 いにくい、夫妻の間ではかまわない。)
- 例 39) <他狄家浑深他有碗饭吃，累不着你甚么！> (68・979)
 (彼女は“狄”の家で食べるご飯があるのだから、かかわりあ
 ってははいけなく。)

- 例 40) <家事房产都我的, 不相干的人一缕线成也分不出我的去!>
(76・1080)
(財産も不動産もすべて私の物である, 関係ない人にはわずかでさえも, 分けるわけにはいかない。)
- 例 41) <你只这们待人有礼, 俺们本等有话也说不出口了> (81・1153)
(こんなに礼を尽くしてしまったら, 我々が当然言うべき話があっても, 口に出さない。)
- 例 42) <一石细米, 一石白麦, 巢不上五六钱银> (90・1277)
(一“石”の精米と一“石”の麦を売りに出しても, 5, 6 銀にもあたいしない。)
- 例 43) <若是进去了, 衙门规矩, 就便出不来了> (6・82)
(もしも中に入ったら, 役所の規則で簡単には外へは出られなくなる。)
- 例 44) <被人挤了一挤, 跌倒了爬不起来> (31・452)
(人に押されてつまずき倒れ, 起き上がれない。)
- 例 45) <看来雨不肯住, 今日走不动了> (25・365)
(見たところ雨も止もうとせず, 今日出かけることができなくなった。)

例 36), 例 37) では“如今”が「時間」と言う外的要因を, 例 38) では“其中”(“父母兄弟”)が「家族関係」と言う外的要因を, 例 39) では“他狄家…饭吃”が「家庭環境」と言う外的要因を, 例 40) では“家事…是我的”が「所有物」と言う外的要因を, 例 41) では“你…有礼”が「人間の性格」と言う外的要因を, 例 42) では“一石…白麦”が「判定の材料」と言う外的要因を, 例 43) では“衙门规矩”が「規則」と言う外的要因を, 例 44) では“被人…一挤”が「環境の制約」と言う外的要因を, 例 45) では“雨不肯住”が「自然条件」と言う外的要因をそれぞれ表している。

2.1.6. 補語の意味的分類としての「あることをするのが得意でない」(否定の形式で用いられる例)

この意味での用例は大変少ない。筆者の調べた範囲では次の例だけある。

- 例 46) <只是俗人安置不来, 摆设的象了东乡浑帐骨董铺> (4・50)
 (ただ俗人は置き方が下手で, まるで不格好な骨董屋のようである。)

上記例文中の“安置不来”がなぜ「置き方が下手」と解釈できるのだろうか。俗人であっても、雅人であっても、誰でも物を置くという動作を行うことはできる。しかし、「見た目がきれいに置く」「上手に置く」には自己の能力の研鑽が必要である。このため「できる, できない」に焦点があたるのではなく、「能力の程度」に焦点があたり、「得意である, 得意でない」の解釈になる。

2.1.7. 補語の意味的分類としての「可能性がない(～するはずがない)」(否定の形式で用いられる例)

次の例は‘V 不 R’が「可能性の否定(～するはずがない)」の意味である。

- 例 47) <你就连改得好了, 这个「好」字也便急卒来不到的> (54・786)
 (たえず改めてよくしているが, この“好”の字はなかなかやって来るはずがない。)
- 例 48) <把那罢软东西升尽了, 也升不到你身上> (94・1335)
 (たとえろくでなしが推薦され尽くしても, あなたの前まで推薦が来るはずがない。)
- 例 49) <那讨二十石谷来? 这就挫了骨头也上不来!> (10・148)
 (20“石”も持ってこいだと, 骨を砕いても持ってこれるはずがない。)
- 例 50) <狄希陈原是古旧人家, 宦囊也看得过; 住在远村, 恼不着里书什季, 只欠不下官粮, 其余甚么杂役差徭, 也轮不到他身上> (10・1432)
 (“狄希陈”もともと古めかしい人間で, 在職中にためた金もそれなりにある。人里離れた村に住めば, “里书什季”に悩ま

されるはずもなく、食糧にこと欠くはずもなく、雑役も彼の所に回って来るはずもない。)

例 51) <这两个乔人，银子进不去，分上又压不倒，命是偿不成，人是要死半截的了！> (12・177)

(この二人の悪人ときたら、金も受け取るはずもなく、身分でも圧倒できず、命でも償えず、性格もこちこちだ。)

例 47) では副詞“急卒 (すぐには)”が「未然」の意味を表す。また例 48), 例 49) では副詞“也”によって「譲歩関係」が明かである。例 50) では“住在远村”が「条件」を表している。例 51) では文全体が“心里想道”の内容の一部で、二人の人間に対する「判断」を表している。

2.1.8. 補語の意味的分類上可能の意味が読み取れない例

ここでは、形式上は可能補語と同じ形式であるが、可能の意味が読み取りにくい例を挙げる。

第一に“得 (的)”がある種のアスペクトを表すもの。

例 52) <胳膊割了一道深口，没曾卸的下来，从袖中鲜血直流> (66・945)

(腕には深い傷口があったが、まだ切断されておらず、袖の中から鮮血がしたたり落ちていた。)

例 53) <他两个不是好人。他两个连往咱家来了两次，我都没叫他进去，给了他百十个钱，打发的他去了> (68・976)

(彼ら二人は良い人ではない。続けざまに私の家に2回来たが、いづれも中に入れさせなかった。百十あまりの金をやり、追い払った。)

上記例 52) と例 53) は前文の“了”と並列されているので、アスペクトを表すものと考えられる。また、例 52) ではもしも不可能形を表すと、“卸不下来”となる。しかし実際には“没曾卸得下来”となっている。これは形式上

は可能補語の形式をしているが、可能の意味を持っていないと解釈できる。このように解釈しなければ“没曾卸得下来”となっている理由が説明できない。この“的(得)”については「完了」に類するアスペクトと考えられるが、詳細については今後の研究を待つ事にする。

次に例 53) の“打发的去”が「追い払うことができる」と解釈できない理由を考察する。“打发的”は「追い払う、行かせる」という使役の意味であり、【使役】と【可能】とは共起しない。(以下【】は意義素を表す)ここではすでに“打发的”自身が【使役】を選択している。ゆえにこの場合は可能の意味がなく、“打发的”は可能の意味を表さない。

第二に意味上、様態補語(程度補語)と考えられるもの。

例 54) <俺虽是没看得明白,俺也听得明白> (72・1027)
(俺達ははっきりは見えないが、はっきり聞こえた。)

例 54) では“看得明白”が否定形“没看得明白”となっている。“看得明白”は可能補語であればその否定形は“看不明白”,様態補語であれば“看得不明白”となるはずである。しかしこの場合はそうではない。したがって“没看得明白”の“看得明白”は形式上様態補語でも可能補語でもないことになる。ただし意味は様態補語と同じである。

第三に‘V不R’の‘一不R’の部分が接尾語化して、「～したままである」「しきりに～した」の意味を持つものがある。‘一不迭’は 18 例,‘一不住’は 11 例ある。次に代表例を挙げる。

例 55) <只是那薛家素姐听见狄希陈来到,便关门闭户的躲藏不迭>
(25・375)
(“素姐”は“狄希陈”が来たことを聞きつけると、戸を閉めきりに逃げ隠れた。)

例 56) <围了许多人,再三劝他不住> (99・1414)
(多くの人を取り囲み、しきりにいさめた。)

例 55), 例 56) の動詞“躲藏”“劝”が持つ意義素はいずれも【持続】であることからこれらも例文中の‘-不迭’‘-不住’が可能補語の不可能形に読みとることはできない。

第四に‘V 不 R’の‘-不 R’の部分が「~しないうちに」の意味を表す。この形式はその後ろに“三日”“天明”“两三步”のような時間及び数量を表す語がよく用いられる。

例 57) <这皮袄子是他的命, 他出不了三日, 情管就赎> (67・960)
(この皮の裏地のついた着物はあの人の命なんだから, 3 日もしないうちにきつと買い戻す。)

例 58) <这样, 也等不到天明梳头, 你快些热两壶酒来> (4・55)
(このように夜が明けて髪をとかす前に, 早く熱燗 2 本持ってきてい。)

例 59) <走不上两三步, 回头顾盼> (1・12)
(数歩行かないうちに, 振り返り辺りを見回した。)

例 57) の“出不了”, 例 58) の“等不到”, 例 59) の“走不上”はいずれも接続詞相当語である。接続詞相当語には【可能】の意義素は存在しない。ゆえに上記例文中においては可能の意味を読みとることはできない。

第五に「不可能」ではなく、「普通の否定」の意味に読み取れるもの。

例 60) <这两个差人只见我们两个换了这褴褛衣裳, 便却放不在眼里!> (15・224)
(この二人の小間使いは, 我々二人がボロボロの服に着替えてたのに気にもとめない。)

例 61) <大眼看小眼, 说了几句淡话, 空茶也拿不出一鍾> (3・38)
(顔を突き合わせ, 雑談をしているが, 一杯のお茶も持ってきてない。)

例 60) では“褴褛衣裳”を“眼里”の中に物理的に入れることは不可能である。このため形式的には“放不在”という可能補語の否定形式を使っているが、しかし意味上可能の意味は存在し得ない。また、例 61) では名詞“空茶”は実在しない事物であり、したがって“拿不出”と言う動作も仮構のものである。ゆえに二つの例文から可能の意味を読み取ることが出来ない。

2.1.9. 本節のまとめ

第一に否定形が肯定形よりかなり多い。しかし、個別に考察すると否定形と肯定形の比率に近いものもある。

第二に「可能性がない」で読みとれる用例には「未然」「譲歩関係」「仮定条件」「判断」等の意味的制約がある。

第三に現代漢語では通常共起しないと言われている“被”と共起している例が「内因可能」の意味の場合存在している。(注5)

2.2. 動詞+“得了/不了”の用法分析(注6)

この形式では肯定形は2例、否定形は28例出現する。(但し“脱不了(どのみち)”のような慣用語を除く。)

以下の例文はまず、意味的分類により「ある条件のもとでの可能(条件で出来る)」と「状況に対する推測または可能性」…に分け、その中でさらに肯定の形式で用いられる場合と否定の形式で用いられる場合に分けて挙げて行く。

2.2.1. 動詞の分類

ここでは“得了/不了”と結びつく動詞を拼音順に挙げておく。

動詞	用例数(肯定形)	用例数(否定形)	合計数
“穿”	0	1	1
“耽阁”	0	1	1

“到”	0	1	1
“丢”	0	1	1
“断”	0	2	2
“飞”	0	1	1
“拐”	1	0	1
“害”	0	1	1
“亏”	0	1	1
“离”	0	1	1
“去”	0	1	1
“少”	0	1	1
“撕挠”	0	1	1
“死”	0	1	1
“跳”	0	1	1
“脱”	0	1	1
“托生”	0	1	1
“忘”	0	4	4
“忘记”	0	1	1
“误”	0	3	3
“行动”	1	0	1
“值”	0	1	1
“走”	0	1	1
“作”	0	1	1

2.2.2. 補語の意味的分類としての「ある条件のもとでの可能（条件で出来る）」（肯定形の形式で用いられる例）

下記例文中の“成了瘸子”が条件を表している。この条件のもとでは帰結節は“行动不了”になるはずである。しかるに下記の例文は‘虽然……，也……’は逆接関係であるので“行动不了”が“行动得了”に変更されている。従って“成了瘸子”は単純な条件ではなく逆接関係における条件なのである。

- 例 62) <他的汉子吴学颜虽然成了瘸子, 也都行动得了> (49・722)
 (彼女の夫“吴学颜”は片足が不自由になったが、動くことが出来る。)

2.2.3. 補語の意味的分類としての「状況に対する推測または可能性」(肯定の形式で用いられる例)

次の例では“抵盗的他财物精光”は「財物をすべて盗まれる」という将来起こり得る状況を表している。さらに‘不惟…且…’が累加関係を表すので、“且”の後に用いられる文は前述された意味に類似する意味を持つ文が来なければならない。“把个性命拐得了去”は将来起こり得る推測を表す。このため主節の‘把…去’は「可能性」を表しうる。

- 例 63) <不惟抵盗的他财物精光, 且把个性命拐得了去> (57・818)
 (財物をすっからかんに盗まれただけでなく、命までもだまし取られるはずだ。)

2.2.4. 補語の意味的分類としての「ある条件のもとでの可能(条件で出来る)」(否定の形式で用いられる例)

次の例 64) では‘这麒麟…的祥瑞’は「麒麟は聖王の瑞祥の象徴である」という条件のもとでは、その帰結節は常識的には“脱得了禽兽之伦”という肯定形式になるが、ここでは‘虽然…’, ‘毕竟…’によって逆接関係が表されている。従って“脱得了”は“脱不了”という否定形に変えられている。同様に例 65) では“扶病”が逆接の条件を表し、“断不了”は逆接関係における帰結に用いられている。例 66) では“人命事”が条件となっている。人の命に関することは常識的に役所が関わってくる。従って例 66) における“人命事”とは当然役所のことと関わってくる。このため“人命事”は一種の条件を表現し、その条件における不可能を表していると考えられる。

- 例 64) <这麒麟虽然是圣王的祥瑞, 毕竟脱不了禽兽之伦> (1・1)
 (麒麟は聖王の瑞祥の象徴であるが、鳥獣の道を脱することが出来ない。)

例 65) <虽然扶病,他还与珍哥断不了枕上姻缘,所以未得复原>(2・27)

(病気であるが,“珍哥”との色欲を絶つことが出来ず,故にまだ健康が回復しない。)

例 66) <人命事,离不了县里,好往那里递去!>(9・137)

(人命の事は,県を離れては行けない[県で処理してもらうしかない],そこに訴えるべきだ。)

2.2.5. 補語の意味的分類としての「状況に対する推測または可能性」(否定の形式で用いられる例)

次の例 67) では‘那…宝经’が「お金持ちが多数の僧を雇って,お経をたくさん読んでもらう」ということを述べている。常識的にはその結果来世での地位が保証されるはずである。従ってその状況のもとでは“托生得了”になる。しかし例 67) では帰結節で反語形式を取っているので,“托生得了”が“托生不了”に変更されている。故に“托生不了”は前記の状況のもとにおける推測を表していると考えることが出来る。例 68) では‘为他…淘碌’が「彼女のために闇夜にあくせくして働く」という状況を表す。常識的には真面目に働いていて悪事を起こすことはない。従って帰結節は“死得了”(人を殺す)という意味ではなく,“死不了”(人を殺すはずがない)という意味になる。例 69) では“你去走一遭”は「修行のために山に登って戻ってくる」ことを表す。従って常識的には何らかの悟りを得ることが考えられる。そこで帰結節の“误不了你的正果”は前述の状況のもとでの可能性を表示し,「本当の悟りを間違えることはありえない」という意味を表すのである。例 70) では“我有房屋地土”が,例 71) では“不象你”がそれぞれ状況を表し,“走不了”“穿不了”がその状況のもとにおける可能性を不可能形で表している。

例 67) <那有钱的人请几千几百的僧,诵几千万卷宝经,甚么地位托生不了去?>(30・446)

(お金持ちは何千何百もの僧を頼んで,お経をいっぱい読んでもらえば,どんな地位にも托生出来ないことがありましよう)

か。)

- 例 68) <这法只是不好, 罢么。就不为他, 可没的咱每日黑淘碌, 死不了人么?> (58・836)

(この法は良くない, やめておこう。彼女のためでなかったら, 毎日闇夜にあくせくして働いているので, 人を殺すはずがない。)

- 例 69) <你去走一遭, 回来也误不了你的正果> (21・308)

(あなたが一回行って帰ってきても, 本当の悟りを間違うと言うことにはなりえない。)

- 例 70) <我也有房屋地土, 浑深走不了我> (80・1147)

(私には家も土地もある, どのみち逃げるはずはない。)

- 例 71) <浑是不象你, 情管倒穿不了!> (83・1186)

(まったくあんたと違って, 反対に着るはずがない。)

2.2.6. 補語の意味的分類上可能の意味が読み取りにくい例

次の2例は‘V 不了’が「いつまでも」あるいは「～し終わらない」の意味に読み取れるものである。

- 例 72) <那妇人千恩万谢, 与晁夫人念佛不了> (36・533)

(その婦人は何度もお礼を言い, “晁” 婦人にいつまでも念仏を唱えていた。)

- 例 73) <两个你一句, 我一句, 争骂不了> (87・1239)

(二人はああだこうだといつまでも言い争っていた。)

例 72) では“千恩万谢”から【繰り返し】という意義素が表れる。また, “念佛”という動詞からは【持続】の意義素が表れる。このため“念佛不了”は「いつまでも念仏を唱えている」と解釈できる。例 73) においても“两个你一句, 我一句”が【繰り返し】の意義素を表し, また“争骂”という動詞から【持続】という意義素が表れている。従って“争骂不了”は「いつまでも言い争う」と解釈できる。さらにこの2例ではいずれも「現在の眼前の状

況」を述べていることも意味上の特徴である。これらのことから例 67) から例 71) の文の表すそれぞれの状況と異なっていることが理解できる。

2.2.7. 本節のまとめ

第一に否定形 (28 例) が肯定形 (2 例) より圧倒的に多い。

第二に補語型の可能表現の中で出現数 (30 例) はあまり多くない。

第三に多くの場合単音節動詞と結ぶ。ただ少数であるが2音節動詞“行动(動く)”“托生(托生する)”“撕挠(だめになる)”“忘记(忘れる)”“耽搁(遅れる, 時間がかかる)”と結びつく例がある。

第四に現代漢語と同様に, 方向補語“去”を伴う例がある。これらの例では先行する動詞が“拐(性命)”や“托生”のように動詞そのものが抽象的な意味を表す。

第五にいずれの例も「条件」「眼前以外の状況」「現在の眼前の状況」等に含まれる意義素, 及び主要動詞の持つ意義素によって, ‘V 得了’ ‘V 不了’の意味が確定されていることがわかる。

第六に例 63) のように“把”構文の中に使われている例がある。

2.3. 動詞+“得/不得”の用法分析

出現数は, 肯定形が 75 例, 否定形が 421 例であった。(但し“恨不得(したくてたまらない)”“了不得(素晴らしい)”のような慣用語を除く。)

ここでもまず, 意味を基準として「内因可能」「外因可能」「可能性がない(～するはずがない)」「あることをするのが得意でない」…に区分し, 形式によって肯定形と否定形に分けて例を挙げ説明を加える。

2.3.1. 動詞の分類

ここでは“得/不得”と結びつく動詞を, 拼音順に挙げておく。(肯定形用例数前の*は疑問文・反語文・仮定文中に用いられている数を示す)

動詞	用例数 (肯定形)	用例数 (否定形)	合計数
“捱”	0	1	1
“报”	* 1	1	2
“报泄”	* 1	0	1
“比”	0	9	9
“避”	0	3	3
“蔽”	0	1	1
“辨”	* 1	0	1
“变”	* 1	1	2
“忏悔”	0	1	1
“超度”	0	1	1
“扯”	0	2	2
“成”	* 1	13	14
“吃”	0	3	3
“充”	0	1	1
“出”	0	4	4
“出考”	0	1	1
“除”	0	1	1
“处”	* 1	0	1
“穿”	* 2	2	4
“吹”	0	1	1
“吹掸”	0	1	1
“催”	* 1	0	1
“措”	* 1	0	1
“搭救”	0	1	1
“打”	0	6	6
“待”	0	1	1
“戴”	* 1	0	1
“淡薄”	1	0	1

“当”	* 1	13	14
“到”	* 1	15	16
“递”	0	1	1
“定”	0	2	2
“动”	* 2	19	21
“动弹”	0	4	4
“读”	0	1	1
“断”	0	1	1
“翻”	0	2	2
“放”	* 1	0	1
“改”	* 1	2	3
“盖”	0	1	1
“干”	0	11	11
“割舍”	0	8	8
“耕”	0	1	1
“勾”	0	1	1
“顾”	0	10	10
“怪”	0	2	2
“管”	0	9	9
“管理”	0	1	1
“过”	* 2	4	6
“哄骗”	* 1	0	1
“还”	0	1	1
“稽查”	0	1	1
“讥诮”	* 1	0	1
“济”	0	1	1
“加”	0	1	1
“见”	0	4	4
“讲”	0	2	2

“交”	* 1	0	1
“较”	* 1	0	1
“教育”	0	1	1
“结”	* 1	0	1
“禁”	* 5	9	14
“进”	0	1	1
“经”	0	1	1
“救”	0	4	4
“绝”	0	1	1
“开”	1	0	1
“看”	0	2	2
“考”	0	1	1
“哭笑”	0	1	1
“夸”	* 1	0	1
“来”	* 2	7	9
“离”	0	1	1
“留”	0	1	1
“骂”	0	1	1
“买”	0	1	1
“卖”	0	1	1
“瞒”	2	4	6
“免”	0	2	2
“勉强”	0	1	1
“泯没”	0	1	1
“拿”	0	3	3
“奈何”	* 2	1	3
“念”	0	1	1
“弄”	0	1	1
“跑”	0	1	1

“栖”	0	1	1
“起”	0	1	1
“强”	0	2	2
“去”	6	9	15
“饶”	0	3	3
“忍”	* 1	0	1
“容”	* 3	7	10
“揉”	0	1	1
“入”	0	1	1
“杀”	0	1	1
“上”	0	4	4
“少”	0	6	6
“舍”	3 (* 2)	16	19
“失”	* 1	0	1
“使”	* 1	8	9
“收”	* 1	0	1
“收敛”	0	1	1
“守”	0	1	1
“受”	* 6	15	21
“说”	0	20	20
“死”	0	1	1
“送”	0	1	1
“诵”	0	1	1
“宿”	* 1	0	1
“算”	* 1	2	3
“讨”	0	1	1
“腾挪”	0	1	1
“替”	0	1	1
“挑”	* 1	0	1

“听”	0	2	2
“同”	0	4	4
“偷”	* 1	0	1
“推”	* 1	0	1
“脱”	0	4	4
“托”	0	1	1
“为”	0	1	1
“问”	0	1	1
“下”	* 1	1	2
“下意”	0	2	2
“相聚”	0	1	1
“消”	0	1	1
“笑”	0	1	1
“歇”	0	1	1
“谢”	0	1	1
“行”	0	3	3
“行动”	0	5	5
“休”	0	1	1
“学”	0	1	1
“寻”	* 1	1	2
“言”	0	2	2
“言语”	0	2	2
“依”	0	2	2
“应”	0	1	1
“迎接”	0	1	1
“用”	* 1	1	2
“由”	0	7	7
“有”	1	0	1
“语”	0	2	2

“怨”	* 1	0	1
“站”	0	1	1
“照管”	* 1	0	1
“着”	0	3	3
“遮”	0	2	2
“遮蔽”	* 1	0	1
“挣”	0	1	1
“拯救”	0	1	1
“支”	0	1	1
“值”	0	1	1
“指”	0	1	1
“治”	0	2	2
“中”	* 1	0	1
“主”	0	5	5
“住”	* 1	5	6
“走”	0	2	2
“坐”	0	4	4
“做”	* 3	16	19

この表を考察すると、肯定形の出現のほとんどが疑問文・反語文・仮定文に用いられていることが理解できる。

以下に例文を挙げて行くが、先ず意味を基準として、「内因可能」「外因可能」「可能性がない」「あることをするのが得意でない」…に区分し、肯定の形式で用いられている場合と否定の形式で用いられている場合とに分け例を挙げ説明を加える。

2.3.2. 補語の意味的分類としての内因可能（肯定の形式で用いられる例）

“瞞得”“来得”では共に【内面的要因によって引き起こされた精神の働き】で同時に【恒常的心理を表す文】と考えられる。意味的制約が現実の文とし

て出現するには内因を表す具体的語彙、或いは外因を表す具体的語彙が必要である。例 74)、例 75) は恒常的心理を表す文である。動詞意義素【恒常的真理】を述べた文には外因を表す具体的語彙は出現し得ない。従って外因が存在しない。

- 例 74) <外边瞒得众人, 家中瞒不得妻子> (引・3)
 (外では人を騙すことが出来ても, 家では妻子を騙すことが出来ません。)
- 例 75) <你力量来得, 多赈几时; 自己力量若来不得了, 止住就罢>
 (31・459)
 (あなたは施しが出来るなら, 少しでも多く施しなさい, もし出来なければ, やめておけばよい。)

例 76) では“这晁大婶小身薄力”が「身体の弱さ」という内面的意味を表している。その内面的意味によって引き起こされた動作“到得”は内因によって引き起こされたものと考えることができる。

- 例 76) <这晁大婶小身薄力, 到得他两个那里?> (2・21)
 (“晁”の奥様は力が弱いから, 二人の所に行くことが出来ましようか。)

次の例 77) では「2日酔いに対する主語の内面的な処置」を示している。従って内因と考えることができる。

- 例 77) <只是我不投一投, 这一头宿酒, 怎么当得?> (4・56)
 (私はむかい酒はやらないが, この二日酔いはどう処置する事が出来ようか。)

2.3.3. 補語の意味的分類としての外因可能 (肯定の形式で用いられる例)

例 78) では“清官”“去世久”という外因を表す成分があって, それによって引き起こされる外因である。例 79) の“这等暑天”は外因可能の成分である。そのような条件では一般的に言えば“那棉布穿不得”となって, 外因要

因による外因可能の否定になる。ところが、“那棉布怎么穿得”という、より複雑な文（反語文）に転換させられている。従ってここでの“穿得”は外因可能の意味を表している。例 80) では“庸医”が外的要因を表す語彙である。そのような状況では“尝试不得”という外的要因による否定となる。ところがここでは“岂容得庸医尝试的”という、より複雑な文（反語文）に転換させられている。従ってここでは“尝试”は外因可能の意味を表している。例 81) では“计氏与了…银子”が外的要因を表す文である。このような文での可能形式“使得”は外因可能を表している。

例 78) <他的乃父是我朝数得起一个清官, 况又去世久了, 所以家中也只淡薄过得> (16・230)

(彼の父は本朝で清廉な役人に数えられる, まして世を去って久しく, 故に貧しい暮らししかできない。)

例 79) <这等暑天, 那棉布怎么穿得?> (29・430)

(こんなに暑い日には, 綿入れなんて着るにあたいしない。)

例 80) <岂容得庸医尝试的?> (4・52)

(どうしてほんくら医者に見てもらえようか。)

例 81) <总然计氏与了那几两银子, 怎便好就拿出来使得?> (11・162)

(たとえ計氏が何“兩”かの銀をくれたとしても, 使ってもいいものであろうか。)

2.3.4. 補語の意味的分類としての内因可能（否定の形式で用いられる例）

次の2例“顾他不得”“超度不得”が内因可能の否定形である。主語が一人称で動詞が人間の内面的な精神の働きを表すので内因可能と考えられる。

例 82) <思家心切, 寒冷我也顾他不得> (88・1249)

(家を思う気持ちが切で, 寒さなんてかまっていられない。)

例 83) <我做三昼夜道场, 超度不得你托生个男身, 还托生了个女子, 又还要做妾> (30・446)

(私は3日3晩の修行をしたが, あなたを済渡して男に生まれ変わることが出来ずに, 女に生まれ変わって, 妾になった。)

例 84) では“是…的”の構文が「話し手の断定の気持ち」を表しており、「断定の判断の主体」が潜在的な一人称である。ゆえに‘V 不得’は内因可能の否定になる。

- 例 84) <这件营远又是秀才们治不得生的> (33・480)
(この仕事は秀才達には出来ない仕事である。)

2.3.5. 補語の意味的分類としての外因可能 (否定の形式で用いられる例)

例 85) では“没合人打惯官司”が外的要因を表している。ここでは「裁判をしたことがない」から「できない」という原因・理由を表す文である。例 86) では“我们证他的罪名”が外的要因を表す文である。従って“除得根”という外因可能になる。ところが“便是……”によって譲歩節に転換されており、その結果帰結を表す文も否定になっている。ゆえに“除不得根”は外因可能の否定である。例 87) では“惠老嫂……极有本事的”が外的要因を表している。一般的には“到的他手里”という外因可能を表す。しかしここでは“就算是……还……”(たとえ……でも……)が逆接関係を表す文に用いられているので“到不的”という否定形をとっている。

- 例 85) <我又没合人打惯官司, 这样事, 我通来不的> (81・1151)
(私は裁判をしたことが無いから, こんなことはまったく出来ない。)
- 例 86) <便是我们证他的罪名, 除不得根, 把仇越发深了> (20・297)
(たとえ我々が奴の罪名を証明しても, 根を取り除くことが出来ないから, 恨みがますます深くなる。)
- 例 87) <惠老嫂也就算是极有本事的, 我看起来还到不的他手里> (81・1153)
(あんたの奥さんも大したものだが, 見たところ彼女には及ばない。)

次の2例でも“没有力量”(例 88), “与都有一定的缘法”(例 89)が外的要因を表しており、ゆえに外因可能になる。

例 88) <孩提的时候, 没有力量, 报不得父母深恩> (引・2)
(赤ん坊の時は力もなく父母の深い恩に報いることが出来ない。)

例 89) <与人都有一定的缘法, 丝毫着不得勉强, 容不得人力> (79・1121)
(人との決まったゆかりは, いささかも強制することは出来ず, 人の力を受け入れることも出来ない。)

次の例 90) では挿入成分“闻说”が「話し手の注釈」を表しており, この文の潜在主語は総称としての役人一般であり, “二钱粮……, 参罚”が外的要因を表している。

例 90) <况近来闻说二钱粮也多逋欠, 常被参罚, 考不的满> (5・66)
(近ごろでは年貢も滞り, 常に罰せられ官は任期を満了できない。)

次の例 91) では“身上还没大好”が外的要因を表し, それによって“出不得门”という事態が引き起こされていることがわかる。従って“出不得门”が外因可能の否定形である。以下 3 例中の“外面又拥集了几万的人” (例 92) “太爷的官法容得甚情” (例 93) “留下两口子” (例 94) も同様に外的要因を表している。

例 91) <只推身上还没大好, 出不得门> (4・46)
(体がまだ良くなっていないことにして, 外に出るわけにはいかない。)

例 92) <外面又拥集了几万的人, 把轿都行动不得> (20・298)
(外には何万の人が取り囲み, 籠を動かすことが出来ない。)

例 93) <太爷的官法容得甚情? 就是姑夫自己也做不的主了> (98・1399)
(お上の法律は情けを入れることが出来ようか。おじが自分で処理することも出来ない。)

- 例 94) <要不只得留下两口子罢, 只是我行动又少不得他> (14・213)
 (なんなら彼ら二人を残して置くしかない, なんといっても彼を欠くわけにはいかない。)

次の例 95), 例 96), 例 97) はこれまでの例とは異なり, 外的要因を表す成分が違った形式, 或いは位置に出現している。

例 95) では主語の限定語“出家”が外的要因を表している。

- 例 95) <出家人打不的诳语; 你若不实践了这句说话, 犁舌地狱是脱不过的> (21・308)
 (出家した人は嘘をついてはいけない。あなたがもしもこのことを実践しなければ, 舌を引き抜かれる地獄から免れることはできない。)

外的要因が後文に出現する例もある。

- 例 96) <你这七个女人饶不得的; 你们都在那里, 凭着主母缢死, 也不拦救> (10・148)
 (おまえ達 7 人は許すわけにはいかない。おまえ達はその場に居ながら, 奥様が首を吊っているのに助けなかった。)
- 例 97) <那张水云是指他不得的。这街上的居民也没有甚么肯供斋饭的> (29・427)
 (かの張水云は頼りにならない奴だ。この街の人々は誰もご飯を托鉢し布施をしない。)

上の 2 例では後文の“凭着主母…也不拦救”“这街上的居民也…供斋饭的”が外的要因を表し, その結果“饶不得”“指他不得”という事態がもたらされていることがわかる。

2.3.6. 補語の意味的分類としての「可能性がない(～するはずがない)」(否定の形式で用いられる例)

次の 3 例では“每人分五十两”(例 98) “这样满收的风景”(例 99) “栈道底

下没底的深潤” (例 100) が「眼前の状況」を表し、それに続く後ろの文が将来の事態を表している。従って「眼前の状況」が外的要因になって、将来の事態を推測する意味が表されている。このため“做不的”“依不得”“到不的”は可能性を表すと考えられる。

例 98) <每人分五十两, 做不的个小本钱么?> (15・221)
(それぞれ 50“两”に分け, ちょっとした元手にできないことがあるか。)

例 99) <且这样满收的风景, 也依不得这个常期> (24・356)
(このような豊作の風景が, いつまでも続くことはありえない。)

例 100) <栈道底下没底的深润, 失了脚掉下去, 待半月十日到不的底哩!> (84・1194)

次の例 101) は長い後文が「状況」を表す例の 1 つである。この状況には 3 つのケースが含まれている。1 つは“他高大爷……婆娘”, 2 つ目は“他要做……礼东”, 3 つ目は“他要做……动干戈”である。例 101) はそのような状況のもとでもたらされる事態を推測して, 前文に述べているものである。

例 101) <真是一个同不的一个。他高大爷先鬼头蛤蟆眼, 你先虎背雄腰的个婆娘。他要做文王, 你就施礼东; 他要做桀、纣, 你就动干戈> (2・20)

(本当にいつもと同じように行くはずがない。“高大爷”が陰でこそこそやるなら, あなたは頑強な姑になればよい。彼が文王になるとすれば, あなたは礼節を尽くせばよい。彼が“桀”や“纣”になるのなら, あなたは武力を行使すればよい。)

2.3.7. 補語の意味的分類としての「ある事をするのが得意でない」(否定の形式で用いられる例)

次の例 102) では“他容不得人”が「人付き合いできない」とすると, 以下の“只怕管待不周”とは続かない。従って「得意でない」と解釈するしかな

い。

- 例 102) <那吕仙阁的住持张道人, 他容不得人, 只怕管待不周, 你不能在那边久住> (29・426)
 (呂仙閣の住職の張道人は、人付き合いが上手でなく、世話が周到でなく、あなたはそこに長くはいれない。)

2.3.8. 補語の意味的分類上可能の意味が読み取りにくい例

第一に‘V 不得’が「～しないうちに」の意味に読み取れるもの。この表現の特徴は‘V 不得’の後に“天亮”“两三日”“三四日”“两个月”等のような時間表現が用いられている。

- 例 103) <珍哥等不得天亮, 差亮一个家人晁住> (2・23)
 (“珍哥”は夜が明けるのも待たず、“晁住”を使いに出した。)
- 例 104) <老爷这会子极心焦, 为家里官司的事愁的整夜睡不着, 如今头发胡子通然莹白了, 待不得三四日就乌一遍, 如今把胡子乌的绿绿的, 怪不好看> (14・211)
 (お父さんは今回のことで心をひどく痛めている。裁判のことで悩んで一晩中寝れないでいる。髪も髭もすっかり白くなったと思ったら、3, 4日しないうちにカラスのようになり、今度は髭が黒々として全く見られたものではない。)
- 例 105) <浑深待不的几个月就选出官儿来, 你就穿袍系带, 是奶奶了> (72・1031)
 (どのみち数カ月もしない内に役人に選ばれ、あなたは長着(着物)を着れるようになり、立派な大奥様になる。)

上記の例のほかに「～するのを待たずに」「～しないうちに」の意に読み取れる用例“消不得两个月”“歇不得两三日”“禁不得三四日”等も存在する。

第二に“値不得”が「値しない」の意味に読み取れるもの。

- 例 106) <或是那浑帐酒一坛, 值不的三四钱银子, 成八九钱的算帐>

(22・331)

(あるいはそのお酒は3, 4 銭の銀子に値するのではなく,
8, 9 銭にはなる。)

例 106) の文構造はただ判断を表すだけの“不是……就是 (而是)……”がこの文の論理的意味である。この論理構造の先行部分に可能の意味を付加することはできない。

このほかに“认不得 (知らない)”“听不得 (的) (聞こえない)”“使不得 (使わない)”等に読み取れる用例も存在する。

例 107) <这些婆娘, 听不得风就是雨> (2・18)

(あいつらときたら, 風の音さえ聞こえないのに, 雨だという。[口からでまかせをいう。])

例 107) をもしも可能とすれば「風を聞くことができなければ, 雨だ」という意味になる。しかしここでは例 106) と同様に判断を表すだけの“不是……就是……”が文の論理的意味である。従って可能の意味を付加することはできない。

2.3.9. 本節のまとめ

第一に否定形 (420 例) が肯定形 (73 例) よりもはるかに多い。

第二に否定形では「内因可能」「外因可能」以外に、「可能性がない (～するはずがない)」「あることをするのが得意でない」の意味で読み取れる例があり, 現代漢語よりも多様な意味を表す。

第三に‘V 不得’の形式を取りながら, 「可能の否定」の意味を表さないものがかなり見られる。(例 103) (例 104) (例 105) (例 106) (例 107)

第四に「内因可能」「外因可能」および「可能性がない」の意を表す文では, 「可能」の意味の決定に与る成分が文中に存在する。

第五に“己 (使役)”“叫”“教”と共起している例がある。(注 7)

以上で『醒世姻縁傳』の可能補語についての調査分析を終わる。

3. おわりに

本論は現代漢語の可能補語に対する過去の研究をもとに、『醒世姻縁傳』の可能補語を意味と形式から詳細に考察した。

次に調査結果を現代漢語の可能補語と対比した際に気付いた点を記しておこう。

第一に補語型‘V 得 R’ ‘V 不 R’の可能表現は現代漢語では「内因可能」「外因可能」「可能性がある(ない)」の意に限られるが、『醒世姻縁傳』ではさらに、「あることをすることが得意でない」という意味の多様性が見られた。

第二に‘V+得了/不了’の出現数は現代漢語ではかなり高いが、『醒世姻縁傳』では他の補語型の出現数よりかなり少ない。

第三に現代漢語の可能表現と同じように『醒世姻縁傳』でも補語型の場合、否定形が肯定形よりもかなり多い。

第四に『醒世姻縁傳』では補語型の可能表現と同一形式であるが、「可能」が読み取れないものが見られた。

第五に補語型の可能表現では、可能の意味の多様性が生ずる要因は、文中の様々な成分との意味的関わりによって表れる。

第六に可能補語は現代漢語では通常“被”構文，“把”構文と共起しないとされているが、『醒世姻縁傳』では共起している例があった。

この結果をもとになぜかを考え、問題点を解決しなければならない。問題点を解決するには、可能表現に対する意味分析を綿密におこない、その意味の多様性が生ずる要因を詳しく分析し、それを根拠に考察をしなければならないものである。更に『醒世姻縁傳』は難解な箇所が多い資料であり、文脈により意味を判断することが難しいところも多い。この点の解明は今後の研究を待ちたい。

最後ではあるが修士論文の執筆及び拙稿の執筆には様々な先生方のご援助

ご協力をいただき完成することができた。

論文の体裁やパソコンの取扱等細かい点をはじめとし、様々な貴重なご意見、かつご指導を賜った松村文芳教授、山口建治教授には心から謝意を表します。また、修士論文口頭諮問の際に様々な問題点についてのご指摘、ご指導を賜った松本昭教授、大西克也助教授（現 東京大学助教授）にも心から謝意を表します。このほか、大学の学部生の頃から中国語研究を始める機会を与えてくださり、現在でも引き続き白話小説を資料とするときの注意点や方法論についてご助言を賜っている香坂順一先生にも深く謝意を表したいと思います。さらに『醒世姻缘传』の不明点についての解説ばかりでなく、可能表現についても様々な示唆を賜った、大阪市立大学の永吉昭一郎先生、並びに大東文化大学中国語大辞典編纂室の閻崇璩先生にも重ねて心から謝意を表します。

注

- (1) 浦山あゆみ 1992 による。なお、参考として活字本の前言と同徳堂本の出版説明の該当箇所を以下に挙げる。
活字本前言・・・本书以一九三三年亚东图书馆排印本作底本，并以建徳周氏藏本、省軒綬藏本、初印十二行本、同徳堂本、中国科学院藏本、首都图书馆藏本、同治庚午覆同徳堂本、孙楷第藏同治庚午本八种刻本及石印本二种对校，・・・。
同徳堂本出版説明・・・《醒世姻缘传》今传最早的刻本，为天津市人民图书馆藏乾隆戊子（一七六八）序刊本，刻印俱佳，惜有残损。首都图书馆藏同徳堂刊本，是目前见到的比较完整的本子，现即以此本为底本，照原大影印。原本残破漫漶之页，据人民文学出版社藏同治庚午覆刻本配补。
- (2) 数値については遺漏も考えられるのであくまでも目安とされたい。また、‘一得 R’については出現例文が反語文・疑問文・仮定文であるか、平叙文であるかを更に詳細に考察しなければならないが、今回は出現総数を挙げるにとどめる。
- (3) 補語の形式によって、なぜ肯定形否定形の出現比率に差が生じるのかという問題は今後の課題としたい。
- (4) 可能表現の定義については現代漢語においても、またその他の言語の場合でも、まだはっきりとはなされていないようである。拙稿では日本語の可能文について多角的に分析を加えている井島（1991）の研究を基に可能表現の意味分析を行った。内因可能とは自己（動作主や主題）の能力・属性に関わる可能・不可能のことであり、外因可能とは自己（動作主や主題）とは関わらない外的な要因に

よる可能・不可能（許可・不許可を含む）のことである。

(5) 劉月華 1980 による。以下に該当箇所の説明と例文をあげる。

“V 得／不 C” 一般不能于“把”字句、“被”字句的谓语动词后，不能用于连动句的第一动词后。

我把这个活干不好。 这个杯子被他打不破

但し注でときには用いられるとして、次のような例文も挙げている。

他不明白，自己为什么总是被人看不起。

次に『醒世姻缘传』の例文を挙げる。

〈虽是这等说，那被他劫得动〉(12・171)

(そうは言うものの，“王振”によってせん滅されようか。)

(6) 前節の表では“得了／不了”の出現数が 0 例と 24 例挙げられているが、この“得了／不了”は「しきる、～し終わる／～しきらない、～し終わらない」という意味を表す。ここでの“得了／不了”は‘動詞+得了／不了’で全体として可能不可能の意味の表出に関わるものである。

(7) 例文を以下に挙げる。

〈咱头信狠他一下子，已他个翻不的身！〉(使役) (15・220)

(私はいっそうのことひどい目に遭わせて、自由になることができなくしてやる。(身体を動かすことができなくさせる))

〈谁知这个见面的缘法，也是前生注定，一些也教人勉强不得〉(使役) (50・731)

(人と出会う縁は前世で決まっているので、無理にどうこうすることはできない。(人に無理じいできなくさせる))

〈你要不然，他也鬼混得叫你成不的〉(使役) (38・560)

(そうでなければ、彼もへんなことをして、あなたが成功することをできなくさせる。)

参考資料

愛知大学	1989	『中日大辞典増訂第二版』
中日大辞典編纂処		大修館書店
白维国编	1991	『金瓶梅词典』中华书局
大東文化大学	1994	『中国語大辞典』
中国語大辞典編纂室		角川書店
董遵章	1985	『元明清白话著作中山东方言例释』
		山东教育出版社
高文达主编	1992	『近代汉语词典』
		知识出版社
顾学颉、王学奇	1983	『元曲释词』一～四

	~1991	中国社会科学出版社
汉语大词典	1986	『汉语大词典』一~十二
编辑委员会	~1993	汉语大词典出版社
胡竹安	1989	『水浒词典』 汉语大词典出版社
李申	1992	『《金瓶梅》方言俗语汇释』 北京师范学院出版社
龙潜庵	1985	『宋元语言词典』 汉语大词典出版社
陆澹安	1979	『小说词语汇释再版』 上海古籍出版社
陆澹安	1981	『戏曲词语汇释』 上海古籍出版社
吕叔湘	1980	『现代汉语八百词』 商务印书馆
商务印书馆编辑部	1979	『辞源』一~四
	~1983	商务印书馆
田宗尧	1985	『中国古典小说用语辞典』 台湾・联经出版事业公司
田宗尧	1985	『中国话本小说俗语辞典』 台湾・新文丰出版社
吴士勋、王东明主编	1992	『宋元明清百部小说语词大辞典』 陕西人民教育出版社

参考論文・書目

—日本語学・英語学—

井島正博	1991	「可能文の多層的分析」『日本語のヴォイスと他動性』： 149-189 くろしお出版
金子尚一	1980	「可能表現の形式と意味（I）—“ちからの可能と認識の可能” について—」『共立女子短期大学紀要（文科）』第23号
金子尚一	1981	「能力可能と認識可能をめぐって」『教育国語』第65号
小矢野哲夫	1979	「現代日本語可能表現の意味と用法（I）」『大阪外国語大学学 報・言語論』第45号
小矢野哲夫	1980	「現代日本語可能表現の意味と用法（II）」『大阪外国語大学学 報・言語論』第48号
小矢野哲夫	1981	「現代日本語可能表現の意味と用法（III）」『大阪外国語大学学

- 報・言語論』第54号
- 森田良行 1989 「～られる」『基礎日本語辞典』：1213-1216
角川書店
- 中野弘三 1993 『英語法助動詞の意味論』英潮社
- 奥田靖雄 1986 「現実・可能・必然（上）」『ことばの科学 I』：180-212 むぎ
書局刊
- 澤田治美 1992 『英語法助動詞の意味論』研究社
- 寺村秀夫 1982 「可能態」『日本語のシンタクスと意味 I』：255-270
くろしお出版
- 中国語学—
- 相原茂 1991 「能・会・可以」『中国語』No. 372：30-33 内山書店
- 荒川清秀 1990 「助動詞と可能補語—／能 VR／と／V 得 R／—」『愛知大学
外語研紀要』第14号
- 玄幸子 1985 「敦煌変文に於ける V 得について」『中国語学』第232号：71
頁
- 服部昌之 1970 「可能の能願動詞と可能補語の関連について」『北九州大学外
国語学部紀要』第20号
- 地藏堂貞二 1984 「清代語法的試深」 神戸市外国語大学修士論文
- 地藏堂貞二 1985 「明清における可能表現について」『大阪市立大学人文論叢』
第14号
- 地藏堂貞二 1990 「緑野仙踪の言語」『北陸大学紀要』第14号：194-195
- 香坂順一 1964 「醒世姻缘の作者のことば」『明清文学言語研究会会報』第5
号
- 香坂順一 1978 「近世・近代漢語の語法と語彙」『中国文化叢書 I 言語 5
版』：301頁 大修館書店
- 香坂順一 1983 a 「近世語ノート」『白話語彙の研究』：186-187
光生館
- 香坂順一 1983 b 「近世中国語の“得”」『東洋研究』：61-88
大東文化大学東洋研究所
- 刘月华 1980 「可能補語用法的研究」『中国語文』第4期：246-257
- 刘月华、
潘文娛、
故犇 1983 「可能補語」『实用现代汉语语法』：353-364
外语教学与研究出版社
- 宮田一郎、
李隘定 1992 「助動詞文（一）」『文型を中心にした中国語文法演習』：
18-22 光生館

- 望月八十吉、1970 「可能補語」『中国語学習のポイント』：54-57 光生館
高維先
- 守屋宏則 1992 「水滸にみられる可能補語の特徴」『中国俗文学研究』第10号：109-132
- 大河内康憲 1980 「中国語の可能表現」『日本語教育』第41号：61-74 日本語教育学会
- 太田辰夫 1981 『中国語歴史文法』(1958年・江南書院版景印)：196, 229-236 朋友書店
- 小野秀樹 1990 「中国語の可能表現—‘他動性’を通しての‘能VR’及び‘V得R’の考察—」『中国語学』第237号：93-100
- 小野秀樹 1991 「中国語における可能表現の‘否定’—‘他動性’を通しての‘不能VR’及び‘V不R’の考察—」『中国語学』第238号：11-19
- 小野秀樹 1993 「“得”補語が表す‘可能’の意味」『中国語』No.401：12-17 内山書店
- 志村良治 1978 「中古漢語の語法と語彙」『中国文化叢書I 言語 5版』：282-284 大修館書店
- 志村良治 1984 「中世中国語の語法と語彙」『中国中世語法史研究』：72-74 三冬社
- 杉村博文 1979 「能学好，学得好，能学得好」『日本語と中国語の対照研究』第4号 日本語と中国語の対照研究会編
- 杉村博文 1992 「可能補語の考え方」『日本語と中国語の対照研究論文集(上)』：213-232 くろしお出版
- 竹島金吾 1994 「可能・不可能」『練習中心トレーニング中国語』：40-42 白水社
- 戸沼市子 1992 「‘V得/V不得’について」『お茶の水女子大学中国文学会報』第11号：11-25
- 浦山あゆみ 1992 「醒世姻缘傳の言語」大阪市立大学修士論文